

## 最近のトピックス

### (1) 中国南部における大雪災害に対する緊急援助(物資供与)の実施



上海市民政局で行われた引渡式  
(左から古賀所長、隈丸上海総領事、上海市民政局王局長、張副局長)

中国では今年1月10日頃から南部を中心に50年ぶりといわれる寒波が襲来し、広い範囲で降雨による雪害に見舞われています。民政部(2008年2月14日の発表)によれば、これまでに死者は107人で被災者数は、各省別の数を合わせると1億人を超え、直接の経済損失は、約154.4億ドルに達するとのことです。現在も、電力、飲料水をはじめとする生活インフラの回復の目処は立っておらず、市民生活への影響は甚大なものとなっており、春節を目前に控え、庶民の帰省の足にも大きな影響が出ていました。

こうした深刻な被災状況を踏まえ、2月4日午後中国民政部から日本大使館に対して緊急援助の要請が出されました。これを受けて翌2月5日午後、日本政府は被害救済の緊急性や被災者に対する人道的支援の観点に立ち、毛布3,000枚、発電機300台など約5,700万円相当の緊急援助物資の供与を行うことを決定しました。

JICAは日本政府の決定を受けて、要請内容の詳細について確認を行うとともに2月6

日未明には緊急援助物資の第1便がシンガポール空港を出発し、同日午後3時過ぎまでには全ての物資が上海浦東空港に到着しました。第1便の到着を受け、6日午前上海市民政局の施設において引渡式が執り行われました。同式典の中で日本政府を代表し駐上海総領事より被災者に対するお見舞いの意が伝えられるとともに、日本政府と日本国民の思いとともに一刻も早く物資を被災地へ届けて欲しいとの希望が述べられました。これに対し、上海市民政局王局長より現地で甚大な被害が生じている中で援助がなされたことに対し、中国政府を代表して感謝の意が伝えられました。

その後、民政部も迅速に輸送を行い、これら日本政府が供与した物資は2月10日には安徽省の被災地に届けられました。



上海浦東空港に到着した救援物資

なお、当地の報道によると、各国から以下のとおり今回の大雪災害への援助が表明されています。

アメリカ政府(87万ドル)、シンガポール政府(50万ドル)、マレーシア(100万ドル)、シリア政府(10万ドル)など

(業務班 奥田久勝)

## (2) 「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」 年末会員大会開催！

1月15日(火)夕方、「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」年末会員大会が21世紀飯店にて開催されました。当事務所の古賀重成所長、藤本正也次長を始めとする代表が同会議に参加しました。

同大会には、中国衛生部国際合作司王立基副司長、中日友好病院許樹強院長、日本大使館泉裕泰公使、JICA 中国事務所の代表、同窓会会員 110 名、合計 140 名の関係者が出席しました。

一昨年(2007)の8月設立された「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」では会員は設立当初の240名から約400名に増えており、それぞれ各自の所属先の中堅として大活躍しています。同窓会活動としては、一昨年(2007)10月北京の順義区、昨年(2008)9月に甘肅省で無料問診活動を行うなど、非常に意義のある活動が展開されており、社会各界より広く注目され、高い評価を得ています。



同窓会の冒頭挨拶する古賀所長

同大会開催の際、去年(2007)9月に甘肅省で実施したボランティア活動のDVDが放映され、事務局である中日友好病院外事処がそれを含む2007年の活動成果を振り返りました。その後の交流会の際、参加者は2008年の活動内容に関して、積極的に意見交換を行い、更に多様な方式でボランティア活動を展開する計画が立てられました。

中国において、「貧困患者の受診困難」や「農村医療改革」等、農村における医療問題についてよく報道されますが、これは中国国民の医療への期待の現れでもあります。同

窓会活動はこうした社会の期待に則したものであり、JICA としては今後同窓会の活動に最大限の努力でサポートしていく所存です。

(相互理解班 李瑾)

## (3) 洪水対策推進に向けてアジア各国の 帰国研修員が広東省に集合

—東アジア・東南アジア地域・洪水ハザード  
マップ国際セミナー開催—



洪水ハザードマップ国際セミナーの開幕式

1月30日から2月1日まで、広東省南海市のホテルにおいて、「東アジア・東南アジア地区洪水ハザードマップ国際セミナー」が開催され、アジア7ヶ国のJICA帰国研修員、中国側から国家水害・旱魃防災総指揮部弁公室、広東省水利庁、水利部水利水电科学研究院他全国の水害対策関係者、日本側から在広州総領事館、独立行政法人土木研究所、当事務所などから約50名が出席しました。

JICA 筑波は、2004年度から、独立行政法人土木研究所の協力を得て、地域別研修「洪水ハザードマップ作成コース」を実施してきました。一方、昨今の気候変動によって洪水発生が激しさを増し、大きな国際問題となってきたことから、日本政府は2005年秋のUNESCO総会における賛同を得て、土木研究所内に「水災害リスクマネジメント国際センター(ICHARM)」を設立し、世界の水関連災害の防止、軽減のための的確な戦略を提供する国際拠点とすることにしたこ

とを踏まえ、JICA は、同研修コースに参加した帰国研修員のフォローアップセミナーを積極的に実施したいとする ICHARM を支援することとしました。



東アジア・東南アジア各国から集まった帰国研修員たち

セミナーの第一回は、2006 年度にマレーシアにおいて開催されましたが、帰国後の活動における成功事例や新たな課題等について紹介・議論を行うことで、各国研修員間の情報交換が図れ、得られた他国の情報が自国での今後の活動のヒントになるなど参加者から好評を得ました。今回の広東省での開催は、第一回セミナーの場で、中国の帰国研修員から、次回の開催地として自国を希望する旨の表明があり、実現したものです。

セミナー開幕式には、国家水害・旱魃防災総指揮部弁公室田副主任、広東省水利庁王副庁長、吉田広州総領事、当事務所岡田次長などが出席し、その後カンボジア、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ラオス、中国の帰国研修員が、各国の洪水対策に関する報告を行い、活発に意見が交わされました。また、二日目には広東省の珠江北部における洪水対策の現場視察も行われ、中国の経験を共有しました。

こうしたセミナーの開催は、帰国研修員のネットワークを基盤として、日本の経験・技術を生かしつつ、日中のパートナーシップにより東アジア・東南アジア地域全体に研修成果が広く波及することから、対中経済協力計画の重点分野である「多国間協力の推進」の観点からも有意義であったと考えられます。

(総括次長 岡田 実)

#### (4) 着実な成果を生んだ環保センタープロジェクト

去る1月24日に「日中友好環境保全センタープロジェクト」の終了時評価の内容を確認する合同調整委員会が北京市内で開催されました。日中双方の関係者約30名が出席し、協議議事録の署名が行われました。1992年から始まったこのプロジェクトは、フェーズIから始まり、フェーズIIIを迎え、更に2年間の延長期間を持ち、この3月に15年の歴史を終えようとしています。延長期間中、プロジェクトは「企業環境監督員制度」と「ダイオキシン・POPS 分野」の活動に取り組みました。「企業環境監督員制度」とは、日本の公害防止管理者制度を元にした制度ですが、2005年に国务院の決定としてこの制度の推進が謳われたという大きな動きがあり、今後国家環境保護総局が約6000社に及ぶ工場での試行を拡大しながら、制度策定を推進することになっています。そのためJICAも支援を行ない、基本設計書やガイドライン、資格試験・講習のガイドライン等、今後の企業環境監督員の法制化に必要な文書を環保センターのC/Pと協力して策定し、成果品として完成させるというしっかりとした結果を収めることができました。また、もう一つの活動である「ダイオキシン・POPS分野」も、センターのダイオキシン実験室が国家環境保護重点実験室に正式認定されるという大きな実績を残しました。これらの結果を受け、このプロジェクトは成功裏に終わることができたと評価を受けました。



終了時評価の合同調整委員会を終えて

実は担当者である筆者(大久保)は、名古屋で勤務していた2000年の夏に、環保セ

ンターに出張に来たことがあります。中部センターで立ち上げようとしていた「中国公害防止管理者制度」研修のニーズ調査のためでした。将来、公害防止管理者制度を作るために、この研修を準備したいという専門家の話を聞きながら、正直言って中国のような大国で外国の援助機関が制度作りを働きかけることができるのか、疑問に思ったことを覚えています。しかし、8年経った今、本当に企業環境監督員制度が策定される方向になっていることを担当者として知ることになり、JICA の技術協力の意義を再確認しました。もちろん、制度作りの主体は中国政府であり、

JICA だけの成果ではありません。しかし、これまでの多くの専門家の努力がSEPAから高く評価され、今後の協力が期待されているのも事実です。JICA として誇ることができると思います。

このプロジェクトは終了しますが、現在、環保センターとは「循環型経済推進プロジェクト」という大型案件他、新たな案件の準備を進めています。中国の環境問題という国際的に注目されている課題のために、環保センターとの協力はこれからも続きます。

(業務班 大久保晶光)

## ニュース

### ■ 中国の省エネはまず住まいから ～住宅省エネルギー技術向上プロジェクトの紹介～

もう半年後に控えたオリンピックに向けてまっしぐらに進む北京。街のあちこちに新しいビルがどんどん建っています。その背景にあるのは旺盛な不動産投資熱。でも、値段が高騰する前にと、昨年がんばってマイホームを買ったのは私の同僚の X さんです。

X さんもそうでしたが、中国ではマンションを買った時は日本と異なり内装されていない物件を買います。その後、居住者が自分の好みで内装を業者さんに頼んだり、自分で行なったりします。これをスケルトン分譲と言います。中国でも 80 年代から住宅省エネの取り組みが行なわれており、計画段階では省エネ基準が達成されているにも関わらず、出来上がった建物は基準が守られていないものもあるのが現状です。その理由の一つには、この中国特有のスケルトン分譲のように、施行者が多岐に渡っていることも挙げられます。そのため、住宅関係者にわかりやすい仕様(工法や材料)が十分整備されておらず、省エネ基準が広く理解されていないのです。

2007 年 6 月に始まったこの「住宅省エネルギー

技術向上プロジェクト」は、マンション等の住宅建築物における省エネを促進することが目標です。具体的には、設計や施工の段階で活用されるようなわかりやすいガイドラインを作り、また適切な評価方法を提言することを目指しています。国土交通省から派遣された砺波 匡 (となみ ただし) 専門家をリーダーに、コンサルタント契約による短期専門家の派遣もあわせ、2009 年 5 月までの作業を進めていきます。去る 1 月 28 日には合同調整委員会を開催し、今後の具体的な活動について、建設部住宅産業化促進センター、建築科学研究院、建築設計研究院の幹部と協議しました。C/P 側としては、既に知識面では日本の技術をかなり把握しており、日本の実態に基づいた技術協力に対し、強い期待が示されました。

中国の省エネは世界的に注目されるテーマですが、実は住まいという身近なところにも改善可能な点があります。非常に専門的に見えるこのプロジェクトですが、その成果は自分のマンションにも活用できそうです。もちろん X さんも活用してくれると思います。

(業務班 大久保晶光)

## ■ 青年研修訪日

2007 年度青年研修事業のプログラムとして「環境若手リーダーコース」及び「法制度整備コース」の研修を追加的に実施することになりました。中国の中央及び地方の環境分野に携わる若手行政官5名及び法務業務に携わる青年幹部9名をが、それぞれ 18 日間の訪日を行います(受入期間: 環境 2月19日-3月7日、法律 2月25日-3月13日)。また、この2コースはアジア混成グループの形になっているため、中国の研修員の他、インドネシア、ベトナムなどアジア諸国からの研修員の参加もあります。

「環境若手リーダーコース」は北九州、「法制度整備コース」は東京で、各専門分野の講義、視察を経て、日本の青年たちと交流します。そして、今回の訪日研修を通じて、日本の技術や経験などを持ち帰り、各自の仕事に活かしていくことが期待されます。

1986 年に中曽根首相が訪中した際、日中の青年交流を通じて相互理解を深め信頼と友情を築くことを目的に、1987 年から 5 年間、毎年 100 人、計 500 人の中国青年指導者を日本に招聘することが決定されました。中国において本事業の評価は非常に高く、これまで本事業の各プログラムで合計 4,446 名の青年が日本を訪ねました。

2007 年度、当該事業は「青年招聘」から「青年研修」事業と名称が変わりました。改編後の青年研修事業はより技術研修に特化した事業になり、途上国の将来の国造りを担う青年層を対象として、専門分野の研修を行うとともに、関連施設等の視察を通じて日本の実情を学び、研修の成果を帰国後の国造りに役立てることのできる人材の育成に寄与することを目的としています。

(相互理解班 王莉)

## ■ JICA ボランティアの日本人学校訪問

去る 1 月 25 日(金)、北京日本人学校からの依頼で JICA ボランティア 2 名が同校を訪問し活動紹介を行いました。参加ボランティアは酒井順子さん(青年海外協力隊 19 年度短期・公衆衛生・四川



涼山州での活動を紹介する酒井隊員

省涼山州紅十字会)と渡辺美穂さん(青年海外協力隊 19 年度 1 次隊・小学校教諭・広西自治区柳州市箭盤小学校)。酒井さんは中学 3 年生 30 名程度を前に、身の涼山州での活動を中心に発表しました。学生たちは同じ日本人が中国の地方でボランティア活動をしている様子、特に児童への歯みがき指導について興味深く聞いていました。

渡辺さんは小学 6 年生 70 名程度を前に、中国だけでなく旅行先などでの見聞を交えて活動を紹介しました。渡辺さんは北海道の現職教員ですが、学生さんの前に立つとパッと表情が明るくなり、大きな声と身ぶりで楽しそうに話す姿が印象的でした。



小学校 6 年生に問いかける渡辺隊員

いずれも学生の皆さんからは多くの質問が出され、将来、協力隊に参加したいと手を上げてくれた学生さんもありました。2 名のボランティアにとっても帰国後の社会還元への予行練習になったようで、双方にとって良い機会になったようです。(ボランティア調整員 臣川元寛)

## ■ 2007年度第二回西部職業訓練指導員研修が開催される！

国際協力機構(JICA)、天津市科学技術委員会、天津工程師範学院主催の西部職業訓練指導員現地国内研修が1月4日に開講しました。

本プロジェクトは2005年から始まり、1994年無償資金協力で機材を供与した天津工程師範学院で、3年間に西部地域の職業教育学校の教師400人に対して研修を行い、西部地区の職業教育レベルを高め、西部地区青年の就業機会を増やし、西部産業の発展に貢献をすとの目的で行われています。今年度は本プロジェクトの最終年に当たり、2007年6月が既に4コース120名に対し研修を行っています。今回は西部地区8省、60名の西部地区職業学校の教師を対象として、自動車技術と電子工学2コースの研修を行うこととなっています。

開講式には中国科技部中日合作事務センターの李勇生主任、天津市科学技術委員会韓穎副処長、天津工程師範学院孟慶国学長、国際交流センター謝超処長、そのほか研修コースの担当教師が参加し、JICA中国事務所からは古賀所長とプロジェクト担当林哲浩現地所員が出席しました。中国側は本プロジェクトを非常に重視しており、天津市テレビ局、天津市教育新聞等のマスコミも取材に来ていました。

孟学長はJICAの協力に対して感謝の意を表すとともに、日本国民の税金を無駄にならないように研修成果を挙げる決意を表明した。また、科技部李主任もこれまでのJICAの中国での各領域での協力を高く評価し、協りに感謝の意を表しました。これに対し、JICA中国事務所としては中国中西部地区の産業振興のためには職業教育が最も大事なことと強調した上で、これからも様々な形で西部地区開発に貢献できるプロジェクトを実施していく方針を伝えました。

研修員代表からもJICAの協りに感謝の意が表

され、研修機会を利用してもっと多くの知識を勉強し、期待に応えるとの表明があります。

本プロジェクトは1994年以降の無償資金協力、技術協力プロジェクトの成果の下で3年間順調に進んでおり、西部地区の職業教育レベルアップに大きく貢献をしていると言えます。

(業務班 林哲浩)

## ■ 日中林業生態研修センタープロジェクトの2007年度ネットワーク協調委員会を開催！

1月10日に国家林業局管理幹部学院において今年度のネットワーク協調委員会が開催されました。毎年1回、地方8拠点の代表者と国家林業局及び実施機関である管理幹部学院関係者と日本側プロジェクト関係者が一同に会して今年度の活動成果や次年度に向けた活動計画及び課題を忌憚無く話し合う会議であり、今年も活発な意見交換がなされました。

昨年4月に実施された中間評価結果を振りかえり、これまでの取り組みが順調であることを改めて確認するとともに、2007年は9省市で17回、合計700人が研修を受講し、プロジェクトが開始されてからの研修実績は35回、受講者数1,393人に達していることが報告されました。

また、来年度は地方拠点における自主研修の企画・実施能力をさらに強化していく方向性を参加者全員で確認しました。事務所からは本プロジェクトのホームページがJICA技術協力プロジェクトのホームページ・ベストサイドアワード2007で見事第一位に輝いたことも報告しました！丸一日続いた会議の後は賑やかな親睦会が開かれましたが、事務所から参加した某所員は白酒大好きな猛者達の攻撃にあえなく撃沈したのであります… (業務班 林宏之)

## 人の動き・主要行事

**(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(2月)**  
青年研修「環境リーダー」、「法律」研修員壮行会 (2/18)  
「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」運営指導調査団 (2/25～3/5)  
「涼山州金沙江流域生態退化地区における貧困対策モデルプロジェクト予備調査(3/5～3/12)

「中国首都周辺風砂被害地域植生回復モデル計画」調査団 (2/17-3/14)  
「日中協力林木育種科学技術センター計画」運営指導調査 (2/25-3/9)

**(2) 2月の主要行事**  
なし

## 帰・赴任者紹介コーナー

### (1) 業務次長 渡辺雅人



いよいよ帰国することとなりました。4年7ヶ月の間本当にありがとうございました。

これまでご支援くださいました皆様に心から感謝申し上げます。帰国後は人間開発部勤務となります。今後ともよろしく願っています。

### (2) 業務次長 松本高次郎



はじめまして。1月27日に着任した松本と申します。着任後早々、対中国では数年ぶりとなる緊急援助(大雪被害への物資供与)に巻き込まれました。そんなドタバタで始まった初

めの中国生活ですが、春節には深夜の爆竹に参加、轟音と硝煙のたちこめる中、おめでたい気分を味わうこともできました。これから、大きく、また、長い歴史を持つこの国の実情や文化を少しずつ理解し、長い目でみた協力のあり方を考えながら、中国と日本の発展に貢献できるよう努力するつもりです。皆様のご指導とご協力をお願いいたします。

### (3) ボランティア調整員 臣川元寛



2008年1月16日に着任しましたボランティア調整員の臣川元寛です。中国とのかかわりは青年海外協力隊11年度2次隊で2年5ヶ月、遼寧省瀋陽市で日本語教師のボランティアを経験して以来、約6年ぶりとなります。その後、トンガ、ミクロネシア、モンゴルとJICA事業に携わってきましたが、中国でまた仕事ができることが非常に楽しみです。中国の発展のスピードに負けないよう、しっかりと業務に取り組みたいと思っています。よろしく

お願いいたします。

#### (4) ボランティア調整員 中坊容子



皆様こんにちは。ボランティア調整員として赴任して参りました中坊容子と申します。

私は 15 年度 1 次隊で河北省の石家省外国語学校に派遣されていた協力隊日本語教師

OV です。ちょうど2年前の今頃に任期を終えて帰国致しました。その後も中国とはご縁があり天津、広州に滞在をしておりました。中国滞在は今年で5年目になります。今回こうして協力隊に事業に再び携わることができ大変うれしく思っております。ボランティア調整員は今回が始めてなので皆様にご指導を請うことも多いかと思いますが、精一杯尽力致しますので何卒よろしくお願い致します。

JICA のホームページ:    > <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>  
                                  > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>  
                                  > <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>  
                                  > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>

\* 専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてお願いいたします。

\* その他お知らせ